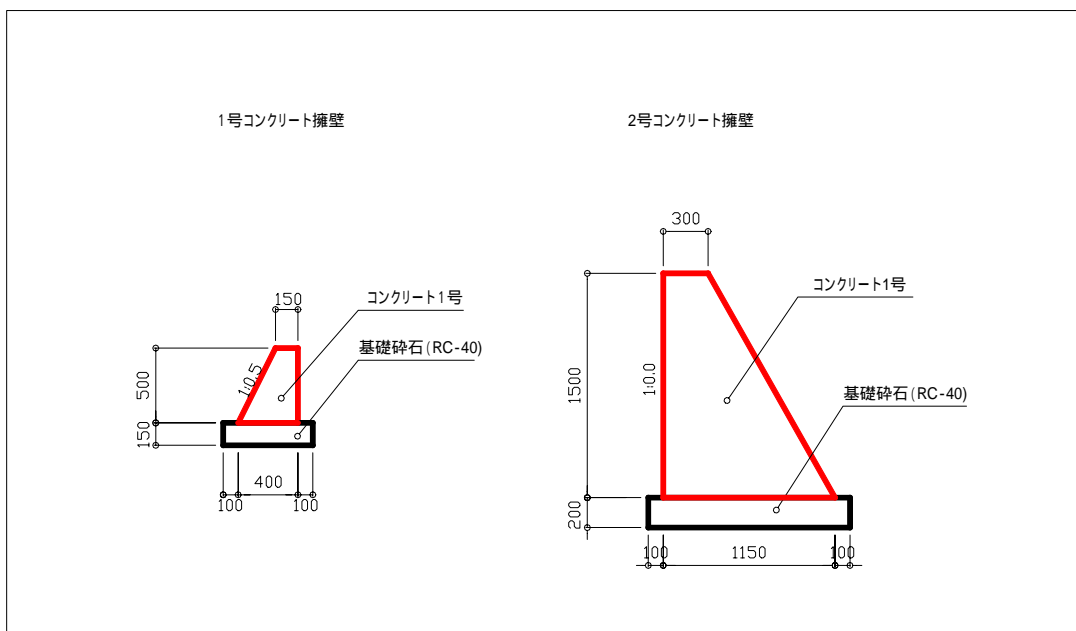


CAD データにおけるレイヤの区分例として、構造図全体に対してレイヤを区分する場合（平面レイヤ）と、構造図毎にレイヤを区分する場合（階層レイヤ）に分け、レイヤの活用例を示す。

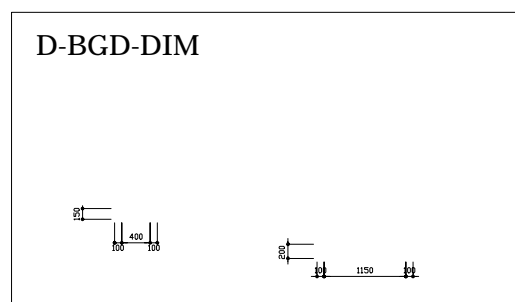
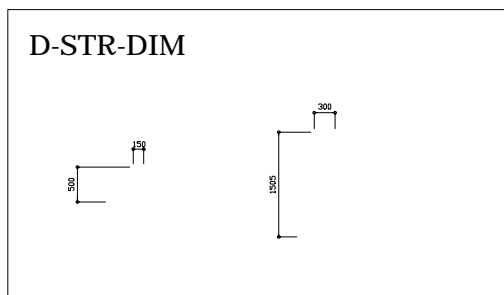
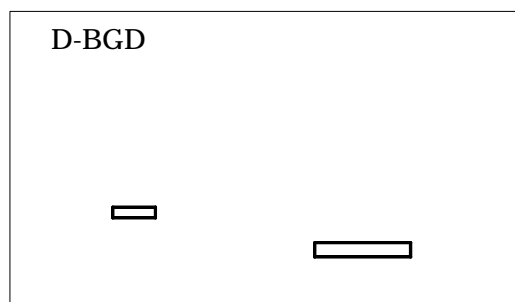
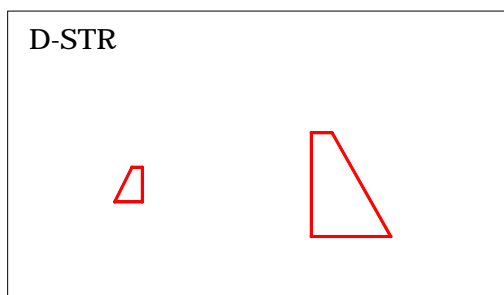
構造図全体にレイヤ区分(平面レイヤ)を使用

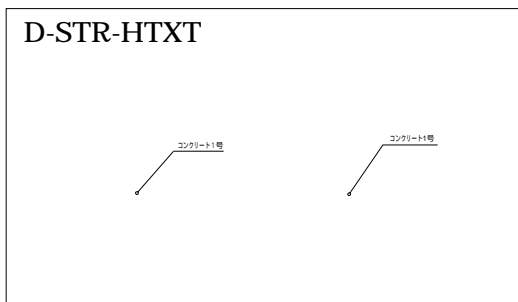
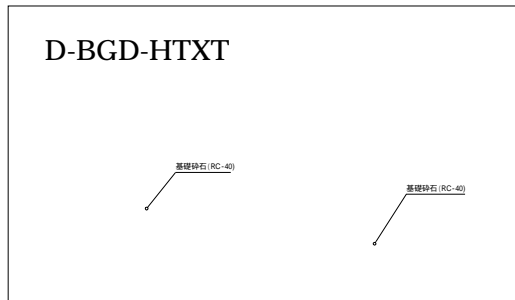
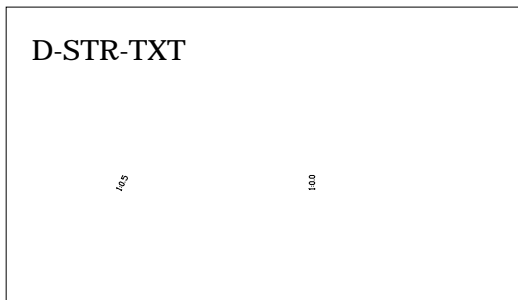
複数の構造物の作図要素を同一のレイヤで管理することにより、適当なレイヤ数で効率的に管理することが可能になる。但し、一つのレイヤに多くの図形要素を詰め込み過ぎると、修正等への対応が困難になるため、かえって非効率となる場合があるので注意が必要である。

【設計図面】



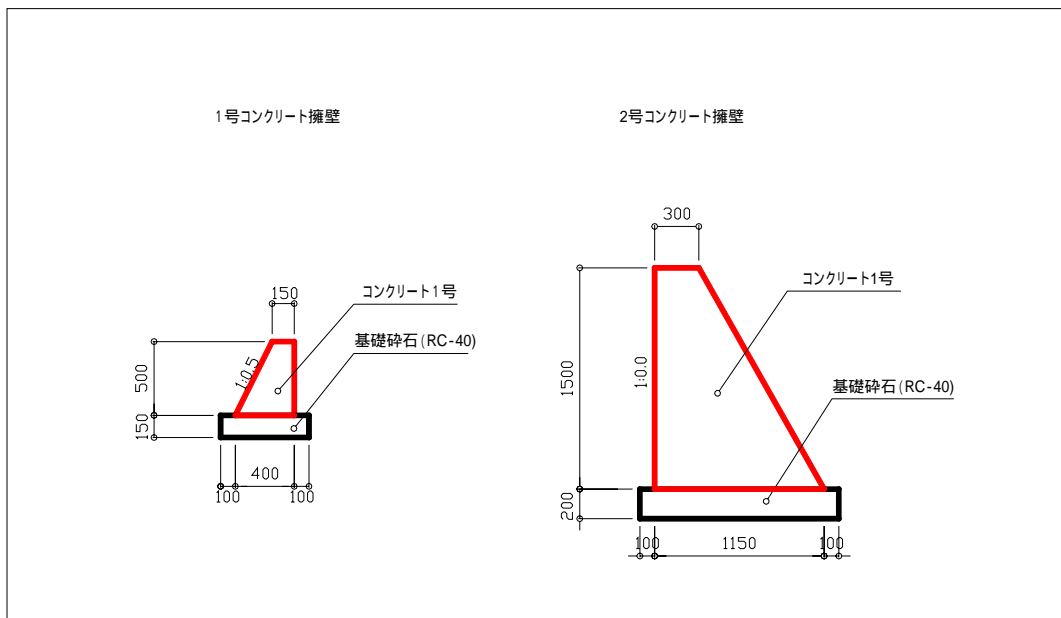
【レイヤの区分例】





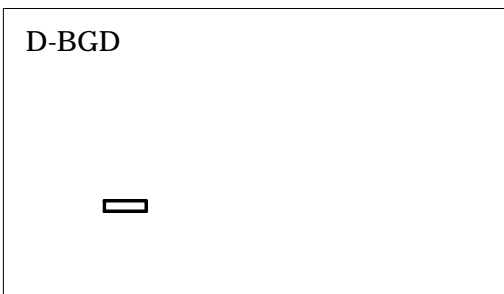
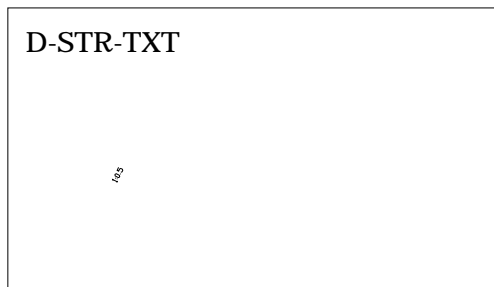
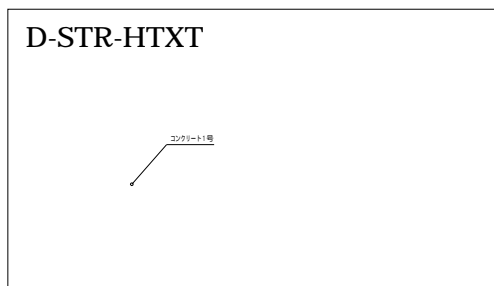
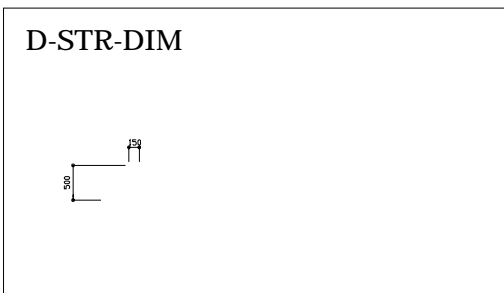
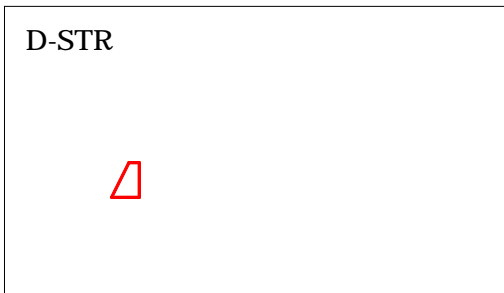
構造図毎にレイヤを区分(階層レイヤ)する場合
 主構造物あるいは副構造物などの分類が多数存在する場合に、構造物毎にレイヤを区分することにより修正等への対応が容易となる。
 但し、レイヤ数が増大すると一般的に作業効率は低下するので注意が必要である。

【設計図面】

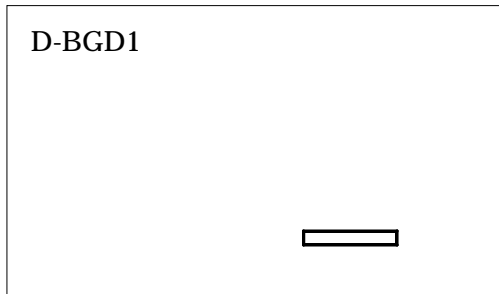
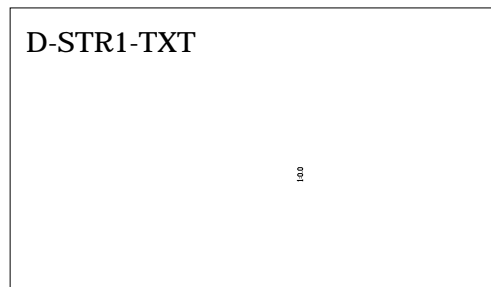
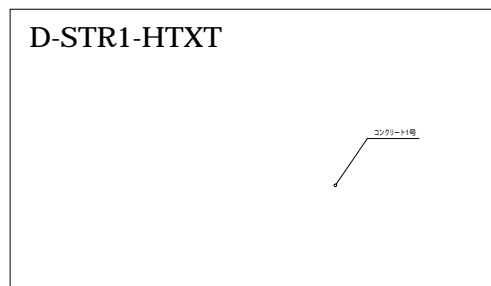
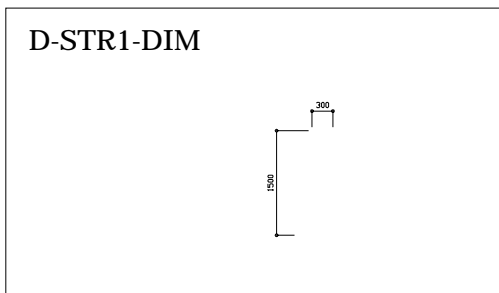
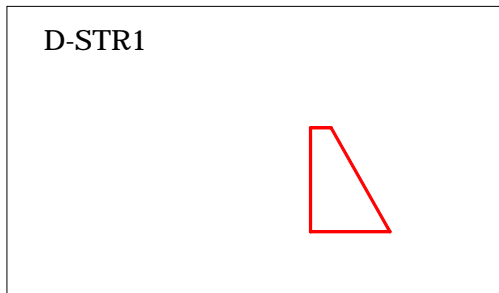


【レイヤの区分例】

1号コンクリート擁壁



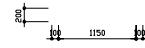
2号コンクリート擁壁



D-BGD-DIM



D-BGD1-DIM



D-BGD-HTXT



D-BGD1-HTXT



D-TTL-TXT

1号コンクリート層壁

D-TTL1-TXT

2号コンクリート層壁